

友野 和子



市議会だより No.2 2020. 1

10月12日の台風19号は、世界的な環境問題を示唆するかの如く、いつもとは違った時期と進路で災害を引き起こしました。多くの情報を集めて、その先に起こりえる事を想定し適格な判断をするという事を迫られた一日でした。8月は清瀬の風物詩であるひまわりフェスティバルにボランティアで参加し、その丁度開催式の時間帯に二人目の孫が産まれる。9月議会は決算と新庁舎、12月議会はゴミの問題で、質問・審議が盛り上がる。公私共に台風の目の中にあるような、一年でした。12月の議会は初日に昭和病院企業団議会議員としての報告から始まりました。私にとって3回目の市議会を終えてこの議会だよりに取り組んでおりますが、半年を振り返り、災害時の備え・仕事の段取り・家庭での役割・時間の使い方も含めて、「備えあれば憂いなし」という言葉をつくづく噛みしめております。今年も、皆様と共に学んでいきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

平成30年度一般会計の決算について

決算の概要は、10月15日号「市報きよせ」の特集で伝えておりますので詳しい内容には触れませんが、国の全体の仕組みの地方分権の制度改革の具体的な仕組みと流れの中で、本年度東京都の全体との比較では清瀬市は26市の中の財政指標はあいかわらず最下位ですが、市財政の基本的収入である市税は今年増収となりました。生活保護率が26市中一番高い市であり、高齢化が進展してゆく中、市の駐車場や指定管理者制度導入による市の収益をあげる対策や、2018年から行われている生活困窮者自立支援制度により就労が増えているという地道な活動。今後を見据えた新庁舎の建設・民生費の基金の積み立て・利用など市政の礎を備えて対応してきている事を知るにあたり、30年度は市と市民の努力により財政の健全化の一步が進められたように思います。清瀬市の特徴を生かした魅力ある自治体を模索し、市民の協力しあいながら市の財政を再建してゆく方向を求めて活動してゆきたいと思えます。また指定管理者制度について、施設の管理の面について災害時を含めて再度検討するようにと12月議会で要望を出しました。

福祉健康常任委員会について

議案では、9月は「国民健康保険事業」・「介護保険」・「後期高齢者医療」についての特別会計歳出歳入決算と特別会計補正予算6件が可決。12月は「災害弔慰金の支給などに関する条例の一部改正」が可決。陳情については、9月「国保運営協議会被保険者代表の公募について」、「最低保証年金制度の確立を求める陳情について」の2件は否決。12月「清瀬市内学校、児童福祉施設等の敷地に隣接する路上での喫煙禁止をする」の一件が可決。大人のマナーをどう育てるのが課題と意見。

昭和病院企業団議会の報告

昭和病院は構成7市の公立病院としての役割を果たし、全国的にもランクの高い病院として評価されています。来年度は、地域の病院への逆紹介をして入院日数を減らして来たことにより空いた病床数を削減し、空いた場所で特色のある専門医療を進める・患者への相談サービス事業を充実させる、非常勤・臨時的職員の待遇も整える等、職員が一体となり病院の経営の根本的な改革を進めて地域医療の公立病院の役割を進めている事の質疑と報告後。関係する議案4件について全員賛成で承認されました。

私の一般質問

9月の一般質問では、ゴミ問題を取り上げてみました。議案ではゴミ袋の値上げと収集方法という二つの事柄が一度に取り上げられているため、ややこしさを感じました。ごみ問題を掘り下げてゆくと住民の自治・環境・高齢化の問題がそこには横たわっており、市民の生活の中でいかに意識化され協力を引き出せる制度を作れるかに行き着きました。実際に地域を回ってみるとゴミ捨てる場所が地域で確保されていないなど、管理の面でも自治組織が抱える不法投棄の問題点が見えてきました。戸別収集は不法投棄をなくし更なる分別化を計りゴミ減量につながるかの判断ですすめられます。ただしこれからの人手不足の時代に収集業者の確保・効率化等が求められてくることもあると考え、①住民の地域ボランティア制度を再構築する「見守り収集」の模索、②CO2の排出の削減につながる可燃ごみを再生ごみとして処理するゴミ処理施設「香川県の日本発のトンネルコンポスト方式」がある事を提言させていただきました。その先はSDGsの視点でゴミ問題を考えてゆくしかないと考え、一般質問はその手前で終える事にしました。12月議会でも市民のゴミの有料化や収集方法に対する意識の向上は非常に高いものとなりました。答弁の中で、清瀬市のゴミ袋代は他市の半額で、ゴミ収集業者のコストも抑えてきた事がわかりました。値上げはこれからのゴミ処理のシステムを維持するにあたっての事です。効率的な収集方法やごみ減量政策は今後も考えつづける問題だと思います。そのほかの提案では、就労を見据えたICT教育について。また今後の本格的な少子高齢化の時代にむけて、南口駅の開発はペDESTリアンデッキを延ばし単身になられた方がお年寄りになったときにサービスが受けられる構造のマンションを含む複合施設につなげる発想で、清瀬の病院街を生かし、まちの活性化と結びつけた清瀬市ならではの駅の開発計画を建てどうか国や民間の力を活用できないものかと提案しました。

12月議会について

来年も引き続き起きるであろう大型台風の災害対策について多くの議員が取り上げ、今後の災害対策が練られる機会となった議会でした。また、ゴミ問題については多くの陳情が出されました。議会の根底を覆す市民の陳情行動も発覚し、今後市民も陳情の在り方など、議会のルールを事前に学習する必要があると思いました。私も実務を通し失敗しながら学んでおります（苦笑）。

一般質問を紙面の許す限り報告させていただきます。



- ① 台風 19 号で柿の下地域のマンホールからの汚水流出の直接的な原因は水再生センターが汚水の受入れを制限したためと聞き、また下水は 9 市で利用との事で詳しい内容の原因の究明と今後の市の対応について求めました。市側では水再生センターに申し入れをし、各市の不明水の早急な対応を含め、経費（9 市からの負担金で補う）の対応の回答待ちとなりました。



- ② 清瀬市に 2 台目の救急車が供えられ、その利用状況を聞きました。東京消防庁では救急相談センター「#7119」を設け、救急車を呼ぶか悩んだ時、相談出来るシステムがある事がわかりました。（シャープセブンイレブン救急車と覚えて利用の効率化のご協力を！）

- ③ 清瀬の魅力ある事業の促進「ひまわりフェスティバル」
清瀬のみんなで育ててきたフェスティバルに「ひまはちちゃん（きよはちのガールフレンド）」キャラの投入！
コミュニティプラザひまわりを使ったベンチャー促進事業とミュージック&ダンス等のコラボ企画！ふるさと納税者にひまわりの招待状を！清瀬を元気にする提案 ♡



武蔵村山市議会議員清水さん
清瀬市農ある風景を守る会会長松村さんと

- ④ 東京 2020 にむけての清瀬のおもてなし事業について等。